

私の薦める、私の一冊 Column

うわの よしお
数学分野 教授 上野 嘉夫

マーク・ピーターセン 著『日本人の英語』
 岩波新書(1988)

出版年からおわかりのと通りのロングセラーです。この本は、How to本ではありません。しかし、本書を読むうちに、「英文を『英語として』読む・書く」ための「ころ」が、読者個々の読み書き体験に応じて養われる気がします。実利的英語力向上への即効性はありませんが、「読んで面白い本」というのが一番良い点です。著者は「不自然な日本語」と謙遜しますが、その「生き生きした日本語」に惹き込まれたのは、私だけではないでしょう。英語教育を重視する本学の学生諸君に、お薦めできる本だと思います。

本書からは、「(まともな) 英語ってこう書かれるのですよ。だから、こう読むのですよ」という思いが、「へーっ」とか「本当?」と呟いたり、思わず笑ったりせずにはいられない豊富な例から溢れ伝わってきます。例えば、“an ex-wife of my brother”から弟(または兄)の複数離婚歴を知るのが、英語の意識だという主張に「へーっ、そうなんだ」と思う人は少なくないでしょう。豊富で面白い事例を通じて、英語表現は文全体の流れと切り離せないこと

が、繰り返し語られます。

私がこの本から掴めた「ころ」は、「冠詞や単複は後付け不可能」で、「英語をUターン禁止で左から右に読む・書く」と総括できるでしょうか。和文論文が原則有り得ない数学分野の研究者として自立すべき時期に本書に出会って、この「ころ」を掴めたことは幸運でした。実際に、英語が左から右に自然に書けるようになっていったからです。それは、英文論文執筆における、ボスの厳しい赤ペン添削からの自立も意味しました。

本書は大反響を呼んだのでしょうか。その後、「続」と「実践」が岩波書店から出版され、それらの「3冊セット」も出ています。また、同著者による『日本人が誤解する英語』光文社(2010)も、面白い本です。そうはいっても、ここで紹介したオリジナルが一番かなと、私は思いますが・・・。

※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

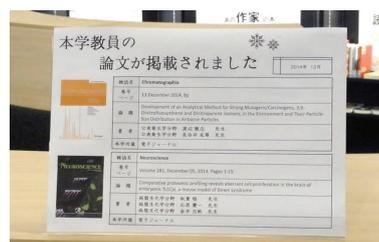


Library News

■ 学術雑誌に載った本学教員の論文を紹介しています

図書館では、教員の皆様が執筆した論文の掲載情報をお知らせしています。

入館ゲートを入ってすぐの「ブラウジングコーナー」に掲示しているほか、図書館HP「お知らせ」からもご覧いただけます。



図書館

開館日程

2015年 4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2015年 5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2015年 6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

 8:30-21:00

 10:00-17:00

 休館

 休館=館内整備